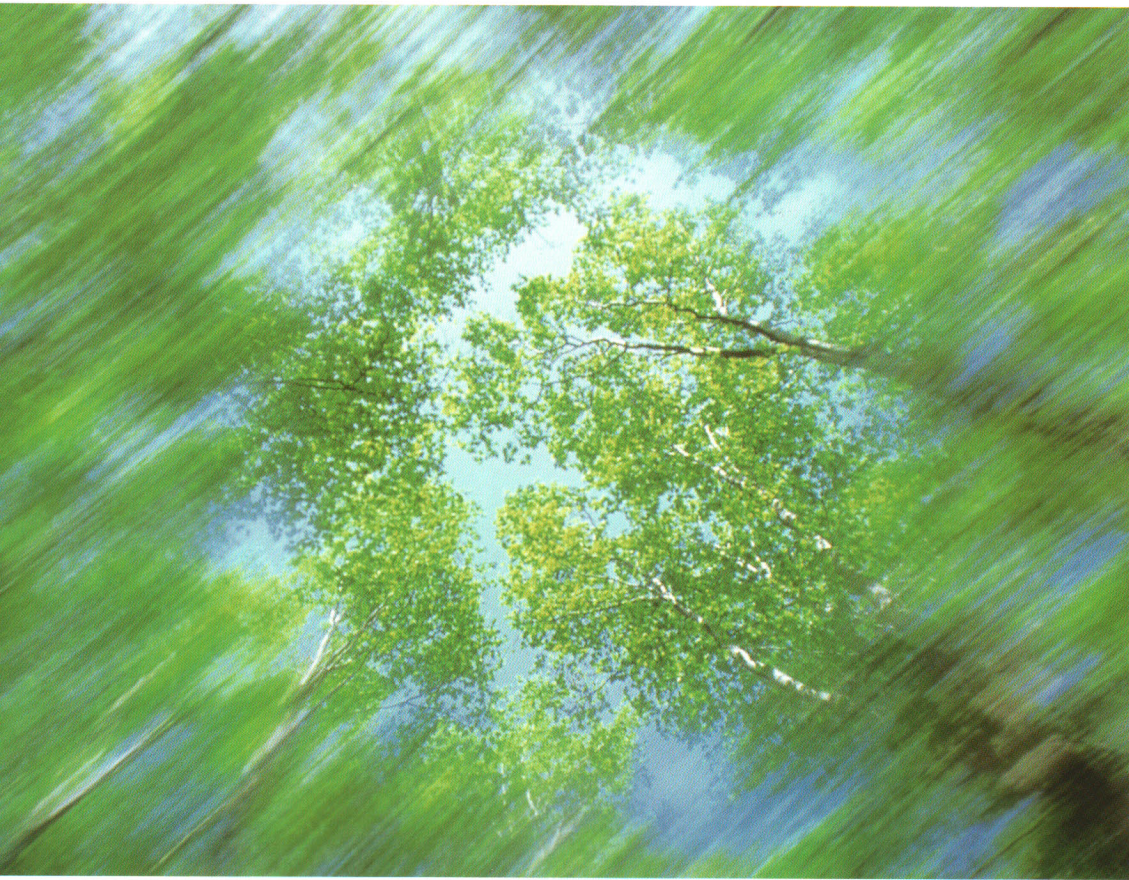


森からの招待状

●
自然と語り、大地の鼓動にそっと耳を傾ける。
幾重にも重なった青葉たちのささやきが森にあふれると、
浅川の人々の心はいつしか潤いで満たされていく。



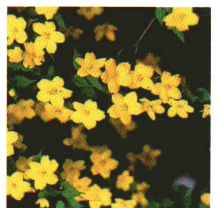
ウメ



サクラ



ツバキ



ヤマブキ



ボケ



レンゲツツジ

森、その小宇宙を歩く

春にはおよそ三〇〇本の桜が咲き乱れ、梅や山つつじなどが城山を彩る。夏の緑、秋の紅葉、冬の雪景色など、季節の移ろいも目に楽しい。約八〇種の樹木が並ぶ森には空に向かつて三〇mほどに伸びたアカマツやスギの間を埋めるようにコナラ、コブシ、山桜、ケヤキなどの低い樹々が茂っている。それぞれの樹木にかかる品種を示すプレート眺めしていると、しぜんと興味が湧いてくるから不思議だ。

青葉がひんやりとした木陰をつくる森は、そのまま動物たちの心地よい住みかになる。鳥類だけで二二科五二種、バードウォッチングにも事欠かない環境。ノウサギやリス、カブトムシなど、小さな生き物を身近に見ることができる恵まれた場所といつていいだろう。こうした自然に身近にふれられるよう、城山には、全長二・五kmの家族向けの散策コースが九つ用意されている。ハイキングやトレッキングで、山菜やクリやキノコの宝庫となる「味覚への道」、白山比咩神社に通じる静かな杉木立の「社への道」、蛇の目が池に続く「湖畔の道」など、それぞれ違った表情のコースを歩くと心も浮き立ってくる。そこに住む生き物たちがつくる森の自然が、安らぎを与えてくれる場所となり、時にはイマジネーションを広げる源泉にもなってくれる。